

〈史料復刻〉  
ビコール日本人會 會報  
1931-1941

全2巻

杉岡康男 編

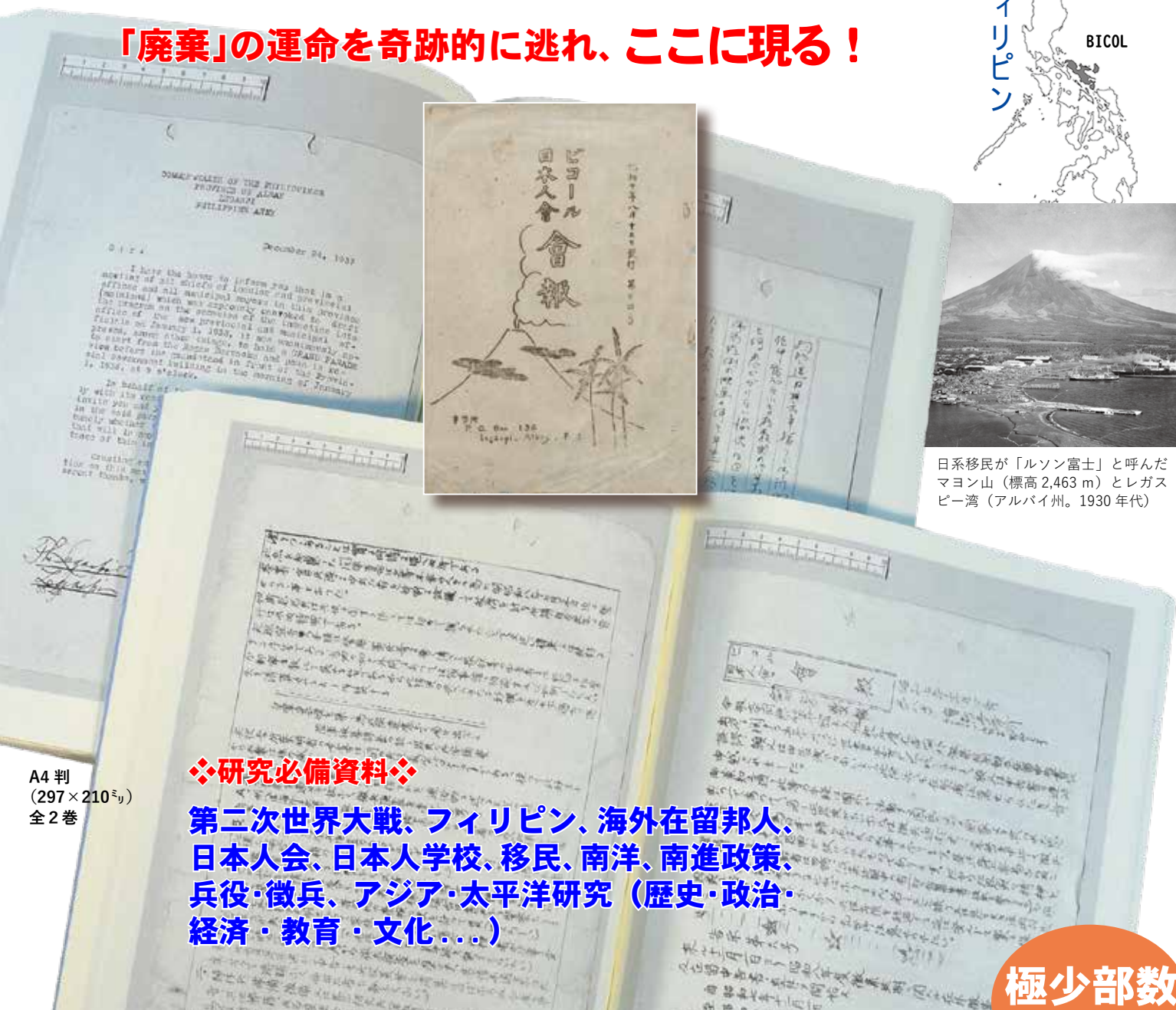
類似史料は皆無！  
昭和戦前期の  
〈海外〉日本人会の実態を  
克明に伝える  
一級史料

真珠湾攻撃（1941・昭和16年12月）直前  
内地に持ち帰られたまま数十年眠っていた  
「超一級」貴重文書を「鮮明」復刻！

「廃棄」の運命を奇跡的に逃れ、ここに現る！



日系移民が「ルソン富士」と呼んだ  
マヨン山（標高2,463 m）とレガスピ  
ビー湾（アルバイ州。1930年代）



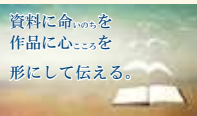
◆研究必備資料◆

第二次世界大戦、フィリピン、海外在留邦人、  
日本人会、日本人学校、移民、南洋、南進政策、  
兵役・徴兵、アジア・太平洋研究（歴史・政治・  
経済・教育・文化...）

極少数  
刊行

学術資料出版

大空社出版



www.ozorasha.co.jp

2020年11月刊

A4判  
(297×210<sup>5/8</sup>)  
全2巻



## 残し伝えなければならないという 強い思いをもって刊行

編者 杉岡康男

編者は、昭和11年(1936年)8月12日、米領比律賓群島アルバイ州レガスピーに、父杉岡金一、母カワエの三男として誕生した。

当時、金一はレガスピーで日用雑貨のレガスピ・バザーを経営し、弟達や親族を日本から呼び寄せて周辺地域にバザー(日用雑貨店)の支店を幅広く展開していた。〔右・写真〕

金一は岡山県の片田舎の長男として生まれたが、農業だけでは親と7人兄弟の家族を養うだけの食い扶持がなく、少年の頃から、村の庄屋と呼ばれる地主の許で住み込みの丁稚奉公をしていた。そこから移民紹介業者を頼り、19歳の時フィリピンのミンダナオ島のダヴァオに、アバカ(マニラ麻)栽培の農業労働者として渡航した。以後、マニラに移住してバザーの店員をし、レガスピーに移ってレガスピ・バザーを開業したが、太平洋戦争中、軍属として従軍し、ソルソゴン州で戦死した。

70数年後に、母の没後、遺産整理の中で多数の寫真と金一が所蔵していた「杉岡文書」を偶然にも目にした。寸時のところで、ゴミとして処分するところを、貴重な史料であると判断し保管することにした。

この「文書」は昭和16年(1941年)大東亜戦争の日米開戦「真珠湾攻撃による太平洋戦争」直前の9月に、金一の指示により母兄弟と共に帰国した際に、荷物の中に混入して、持ち帰らせたものであり、ビコール日本人會の活動記録が中心の「會報」は数號欠如した部分があるが、昭和16年2月20日発行の第四十號までが保存されている。

特に、国民皆兵の時代に、南洋移民が促進された論拠は「南進」政策であると説明されているが、今一つ、南洋移民を生み出した法制上の根拠が昭和2年(1927年)に公布された「兵役法」の第四十二條に規定された徴集延期であるとの研究は数少ない。「會報」には、その根拠となる邦人が提出すべき在帝國外徴集延期願等の書式が掲載されている。

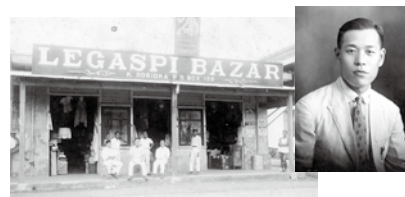
この「會報」は金一がレガスピ・バザーを経営しながら、ビコール日本人會の役員をしていた関係で収集していたものであり、金一が、この「會報」を日本に持ち帰らせた意図は依然不明のままである。しかしながら、この「會報」にはビコール日本人會のメンバー構成及び活動内容の細部が収録されており、日米開戦が必至と判断して在留邦人の詳細な情報が敵方に渡る事を恐れたのではないであろうかと憶測する。

邦人が当時の南洋移民として外地に在留して、各地の日本人会で活動した状況を知る上での端緒となり、フィリピンでは一地方ではあるが、ビコール日本人會「會報」が貴重な一次史料となると判断して、史料集として復刻することにした。

更に、近現代史における「南洋移民と日本人會」をテーマにして、南洋移民と日本人會が大日本帝国の「南進」政策を推進する尖兵としての役割を果たしていた実態を解明したい。  
(本書「まえがき」)

## 【収録内容】 ①②を影印復刻

- ①「ビコール日本人會會報」昭和6年12月～16年2月(全40号のうち10号分欠)
- ②會の運営に係る多種文書(總會報告、入退会・異動、経理、行政文書、団体案内・通知、諸申請書、書簡等)
- ③別冊(B5判・8頁):編者によるフィリピン研究と留学の回想



## ◆編者 杉岡康男 (すぎおか・やすお) 【略歴】

昭和11年(1936)生まれ。16年7月帰国、父の故郷岡山県吉備郡下倉村に移る。

昭和32年(1957)3月、岡山県立岡山南高等学校卒業。正金百貨店入社、大阪支店勤務(～昭和33年3月)。

昭和33年(1958)4月、郵政省京都郵政研修所を経て、大阪福島郵便局、大阪地方貯金局勤務(～昭和40年8月)。

昭和39年(1964)3月、大阪市立大学経済学部Ⅱ部卒業。

昭和40年(1965)7月、フィリピン大学大学院留学(～昭和42年6月)。

昭和43年(1968)4月、橋本税理士事務所入所(～昭和48年6月)。

以後、昭和45年(1970)2月、岡山県行政書士会に行政書士登録、昭和47年(1972)2月、宅地建物取引主任者登録、昭和62年(1987)9月、中国税理士会に税理士登録、それぞれ開業し現在に至る。

昭和60年(1985)3月、大阪学院大学大学院商学研究科修士課程修了

昭和62年(1987)3月、大阪学院大学大学院経済学研究科修士課程修了

平成30年(2018)3月、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位修得退学

## 【著書】

『ココナツ農村の社会と経済：ギノバタン町とバトバット村のケース』アジア経済研究所(1974年3月)

『南十字星を巡る放浪記：フィリピン大学留学生生活と東南アジアの旅 1965年7月15日～1967年6月29日』杉岡康男(2015年9月)

学術資料出版

# 大空社出版

東京都北区中十条4-3-2 (〒114-0032)

TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461

eigy@ozorasha.co.jp

www.ozorasha.co.jp

●お取扱い